

2019年度 地域連携活動報告書

連携先名称：大分県竹田市

協定締結日：2018/8/30

活動状況：継続中

連携先窓口：竹田市役所農政課ブランド推進室

活動資金：大学予算

担当教員（所属）：山田崇裕（国際バイオビジネス学科准教授）

活動体制（単位）：学科

関連教員（所属）：木原高治（国際バイオビジネス学科教授）

大久保研治（国際食農科学科准教授）

活動目的：

包括的な連携のもと地域の産業、環境保全並びに教育・研究の充実のため、産業振興、地域づくり等の分野において相互に協力することを目的とする。

・人材育成に関する活動

「2019年度バイオビジネス実地研修（必修科目）」を通じた農大生と地域住民、優良農業経営者、地元高校の教育交流活動

活動内容・成果：

「バイオビジネス実地研修（一）」の実施（2019年8月21日～29日）

大分県竹田市は、旧荻町時代より長年にわたり「バイオビジネス実地研修」の研修フィールドとしてお世話になっている。2019年度は、上述の期間に国際バイオビジネス学科2年生計8名（男性4名、女性4名）が実習に参加した。学生達は、NPO法人「来ちょくれ竹田研究会」会員の農家民泊（計6件）と、久住高原に所在する株式会社くしふるの大地研修施設にて宿泊しながら、竹田市の特産品であるカボス、荻トマト、スイートコーンを生産する優良農業経営体、および地域を代表する優良畜産経営、農業参入企業において収穫・選別・調整にかかる実習に参加するとともに、一部の学生は道の駅「竹田」（農村商社あおば）、高原の店「とまとちゃん」において特産加工品の販売実習に参加した。また、本年度より、県内唯一の農業高校である県立久住高原農業高校の生徒と本学実習生の教育交流も始まった。

「バイオビジネス実地研修（一）」は、竹田市特産品の生産・加工・流通の実態を網羅的に学習するだけでなく、学生自らが我が国における中山間地域農林業の現状や地域資源を活用した地域振興、農産加工品のブランド化のあり方を俯瞰的に学ぶ機会があるなど、教育効果は高いといえる。また、過去の実習生を

含め、本実習を経験した学生の多くは農業関連企業・団体への就職を実現しており、本実習はキャリアパス形成の契機にもなっている。

2020年度は引き続き「バイオビジネス実地研修（一）」を継続することになっている。

課題・改善点：

今後は、学生実習「バイオビジネス実地研修」に限らず、竹田市の地域資源の活用による農林業、観光業等の振興に資する研究活動を竹田市役所やJA、各事業者と連携しながら展開する必要がある。こうした問題解決型の研究ニーズは竹田市からも出ているものの、基盤となる活動資金がない。学内および竹田市の予算から資金を調達するのは現実的に困難であるため、民間の研究助成金や科研費に応募する等、中長期的な研究活動を可能とする資金の調達について検討する必要がある。また、それに向けた研究テーマや研究内容の協議を行う必要がある。

令和元年度 東京農業大学 国際バイオビジネス学科 竹田市実地研修予定表(第1案)						
		A 女2人	B 女2人	C 男2人	D 男2人	備考
8月		塩谷 溫子 会下 みなみ	佐野 桃香 飯塚 瑞貴	乙田 真志 近藤 優気	三橋 凌人 藤崎 太一	■連絡先 市役所農政課 0974-63-4805 川越 俊一 丸小野真紀 ■竹田市観光ツーリズム協会0974-63-0585
22日	木	ガイダンス・対面式等	ガイダンス・対面式等	ガイダンス・対面式等	ガイダンス・対面式等	午後4時から受入式：花水月 来ちよくれ竹田研究会：対面式
23日	金	渡邊かぼす農園	渡邊かぼす農園	渡邊かぼす農園	渡邊かぼす農園	・研修時間は9:00-16:00で依頼済。 (多少の前後の可能性あり) ・送迎は8:30と16:00に各施設着で。
24日	土	エコファーム21	エコファーム21	卯野農場	㈱フォレスト	
25日	日	とまとちゃん	道の駅 竹田	エコファーム21	エコファーム21	
26日	月	AM：農家民泊で研修（昼食も民泊で） PM：「くしふるの大地」に13時集合、その後研修（宿泊）				※26日の午前は、農家民泊で研修。 ※27日朝まで、くしふるの大地宿泊。 ※宿泊代等はツーリズム協会経由。
27日	火	午前くしふるの大地／午後久住高原農業高校				昼食は、くしふるの大地 午後から久住高原農業高校
28日	水	エコファーム21	エコファーム21	㈱フォレスト	卯野農場	※AM CATV取材（未定） エコファーム21・とまとちゃん
29日	木	修了式	修了式	修了式	修了式	10時00分から市役所応接室で修了式。

歓迎 竹田市
令和元年度東京農業大学国際バイオビジネス学科実地研修受入式
竹田市・竹田市観光ツーリズム協会・来ちょくれ竹田研究会



実習に行かなければ分からなかつたこと

飯塚 瑞貴

1. はじめに

7月22日から7月29日までの8日間大分県竹田市を訪れました。多くある実習先から大分県竹田市を選んだ理由は、竹田市の写真を見たとき、緑が多く自然豊かな風景に強く心を打たれたからです。そこから竹田実習に興味を持ち、先輩方のレポートや先生の話を聞いて、生産、加工、販売すべてのことを学ぶことができること、8日間違う実習ができることに魅力を感じました。また、農家民泊ができるとゆうことで、竹田市のことより深く知ることもできるのではないかと考え竹田市を選びました。

2. 竹田実習の概要

竹田市に来て、2日目から実習が始まりました。2日目の研修はわたなベカボス農園で行いました。カボス農園では、午前中はカボスの品質を向上させるために棘やカボスにかかる葉をとる作業を行いました。この作業を行うことで、カボス全体が太陽の光を受けることができて、均一に同じ色のカボスができると教えていただきました。また一つの茎からいくつもカボスができている場合、一番大きなカボスを収穫し、残った小さなカボスに栄養が届き大きく育つようにする作業も行いました。午後はカボスの大きさ別に収穫を行いました。これらの作業は全てが手作業だったため、かなり大変でしたが、一つ一つのカボスを見てあげるからこそ品質が良く奇麗なカボスができるのだと学びました。ですが、やはり年配の方がこれらの作業を行うことは、とても重労働だと感じました。そのため、カボスを放棄してジュースカボスを作る人が増加していることを渡邊さんから聞きました。なぜなら、ジュースカボスならばカボスの形や色にこだわらず収穫だけを行えばいいからだそうです。私は、実際に作業を行って、10年、20年後のカボス農園はどうなってしまうのだろうか、カボスを作る担い手がいないなら、どうすればその問題は解消できるのだろうかと不安に感じました。座学でばかり、後継者不足、高齢者問題は学んでいたけれど実際に、その問題がここまで深刻だと想えていなかったため、かなり衝撃を受けました。持続可能な農業を行うために私たち若者が対策を考えて、この問題を解決していくかなければ持続可能な農業は不可能なのではないかと感しました。私もこれから課題として考えていきたいと思います。

3日目の作業は、エコファーム21で行ったのですが、休日であったため太田さんの自宅で栽培しているトマトの収穫を行いました。その中で、太田さんが経営について話をして下さりました。特に印象に残っているのは、人と人の繋がりがとても大切であるとゆうこと、その繋がりが顧客を増やすこと、チャンスを増やすことに繋がると言っていた太田さんの言葉です。そのようにおっしゃった太田さんはとても気さくで、車で通る人やすれ違

う人みんなに手を挙げて挨拶をしていて短時間であるのに顔が広いなと感じ、その言葉には、説得力がありました。私もこれからはもっと人との繋がりを大切にしていこうと思います。

4日目は、道の駅で販売実習を行い、地元の方々と沢山お話しをすることができました。最初は、普段のアルバイトのように決められた言葉づかいで丁寧に接客を行っていたのですが、「そんなかしこまっていたらお客様が距離を感じてしまう」とアドバイスをもらい、来てくれたお客様と少しお話してみたり、話かけてみたり、そのようにすると、しっかりと返して下さりコミュニケーションをとることができました。道の駅は、野菜を販売する場所もあるが、地元の方が集まってコミュニケーションを行う場もあるなと感じました。

5日日の作業は、くしふるの大地でブルーベリーの収穫を行いました。収穫をしながら食べたブルーベリーは、とても美味しかったです。6日目は、午前中はブルーベリーの収穫を行い、午後は久住高原農業高校で高校生と一緒にパンジーの苗を植えました。高校生と話して自分の高校時代も思い出すこともできましたし、自分自身がやりたかったことや大学進学を選んだ理由、忘れかけていたことを思い出すことができました。高校進学をするのに農業とゆう専門分野を選択して学んでいる高校生は、将来を見据えていてかっこよく学ぶ部分が多くありました。貴重な経験ができたことを大変嬉しく思います。

そして、7日目の最後の実習ではエコファーム21で2回目の作業を行いました。今回は、トマトの選別やビニールハウスでのトマトの管理方法などを教えていただきました。トマトの選別では、緑、ピンク、赤でトマトを選別し箱詰めをしました。私は、緑のトマトも選別する対象であることに驚きました。地方に届ける際は、緑のトマトを送り、店頭に並ぶころには熟され、ピンクになると聞きました。消費者の立場でしかトマトを見ていなかったので、知らなかった生産する際のことを知ることができました。またエコファーム21では、週休2日制を導入していました。農業は長時間の重労働で休みがないイメージがありますが、エコファーム21のようにサラリーマンのような働き方ならば就職先の選択肢に農業が含まれる若者が増加するのではないかと感じました。5か所で実習を行い、生産や販売、経営について話を聞くことができて、今までの農業の見方が180度変わりま



した。そのため、考えていなかった問題点や農業の素晴らしさや大変さも 1 週間ではありますかが見つけることができました。また、私たちが実習に行った 1 週間のほとんどが雨でした。実習の時は晴れを望んでいましたが、「農業に気候は関係なく雨であれ雪であれ作業をして作物を育てなければいけない」このことを身に染みて学ぶことができ、貴重な経験ができたと思います。

3. 農家民泊

農家民泊では、「青柳庵」で 3 泊「山野草の里」で 1 泊「湧水」で 2 泊お世話になりました。民泊先でのご飯はとても美味しい毎日の楽しみでした。とくに、「青柳庵」で食べた囲炉裏で焼いたお魚は本当に美味しいかったです。囲炉裏でご飯を食べることも初めての経験で嬉しく、囲炉裏を囲って民泊先の方の話を聞いたり聞いていただいたら、とても楽しかったことを覚えています。貴重な経験をさせてもらったこと、感謝の気持ちでいっぱいです。また「湧水」では郷土料理のだんご汁を作るお手伝いをさせて頂きました。野菜やお肉が具沢山でとてもおいしくて一杯で満腹になり大満足の料理でした。また、訪れたら必ず食べたい思い出の味になりました。また、実習の後には、様々な温泉に連れて行って下さりました。それぞれの温泉で湯の種類も違い毎回が新鮮で、何より実習での疲れが取れて、とても気持ちがよかったです。実習の合間に観光を楽しむこともできました。「青柳庵」の方が岡城跡と夢大吊橋に連れて行って下さったからです。岡城では、あいにくの雨で景色を楽しむことはできませんでしたが、夢大吊橋では、雨がやみ橋を渡ることができました。橋を渡るのはとても長くて少し怖かったのですが 3 つの滝をみることができて、その迫力に目を奪われ感動しました。民泊の方には、本当にお世話なり色々なお話を聞くこともできました。みなさんとても暖かく家族のように接してくださいました。青柳庵と山野草の里と湧水で民泊体験ができる本当に良かったです。

4. まとめ

大分県竹田市で行った 8 日間の実習は毎日が新鮮で充実していました。実習先では様々なことを経験することができました。農業は重労働でつらい部分もありますが、それ以上



に素晴らしいやりがいを感じました。実際に農業体験をして農業の魅力に気づく人が今後増えるのではないかと思いました。また、短い実習期間でありますが、後継者問題、高齢化、この問題の深刻な現状も実際に知ることができました。私に何ができるのかはまだ分からぬですが、この問題の対策や解決策を考えていかなければいけないと考えています。東京で暮らしてては感じることができない部分が多くあり実習に行かなければ気付かなかつたことも多くありました。今回の実習は、私にとって大変貴重な8日間を過ごすことができたと考えています。民泊先の方、実習先の方みなさんと関わって得たこと、竹田市で学んだことを大事にし、将来につなげていきたいと思います。

竹田市の人と農業の関係

会下 みなみ

8月22日から8月29日の8日間大分県竹田市で実地研修を行いました。本格的な農作業を今まで行ったことがなかったのですが実際に体験することで農業についての認識が前よりも身近に感じました。今回私は8日間で渡邊かぼす農園、エコファーム21、高原の店とまとちゃん、くしふるの大地、久住高原農業高校と5つの研修先に行きました。5つの研修先ではそれぞれ違うことが学べてそれぞれの良いところや勉強になったことがありました。

渡邊かぼす農園ではカボスの剪定、収穫作業を行いました。カボスの剪定ではカボスの葉でカボスに日が十分当たらないものが多く細かく見極めて剪定しました。日が当たらないと色ムラが出来てしまったり、うまく育たなくなってしまったりと品質に問題が出てしまうので剪定作業がいかに大事かと分かりました。剪定作業では脚立を使って作業を行ったのですがカボスの枝はトゲがあり気を付けないとトゲが刺さり大変でした。木の内側などは葉が生い茂っていたりして脚立では作業がやりづらく上ら辺などは手が届かない所があったりと1つの木の剪定をするだけでも時間がかかり苦労しました。この一部分の場所を数時間作業しただけでも疲れたのですが渡邊さんは奥さんと2人でハウス26a、路地40aもの面積の場所を普段管理しているとは本当に凄いと思いました。

エコファーム21ではトマトの選果作業、ミニトマトの収穫を行いました。エコファーム21の経営者である太田さんから研修中や休憩中に農業や経営の話などをたくさん聞きました。太田さんの農業を行う上でいかに売れるものを作るか、いかに経営でお金をうまく使うかの重要性を学びました。農業はただ作業をするだけではなく利益が出るために頭を使うことが大事だと聞きました。太田さんの経営者としての農業への考え方は新鮮でとても興味深く農業経営をする上で色々な考え方があるのだなと思いました。

高原の店とまとちゃんでは販売をメインで行いました。とまとちゃんでは様々な種類の野菜が売ってあり、農家の方が直接新鮮な野菜を仕入れていて、トマトが午前中に売り切れそうになった時にトマトを販売している農家の方に電話で頼んだら1時間もしないうちに追加でトマトを仕入れに来てくれていたのが直売所ならではな農家の方との連携だなと思い印象的でした。今回とまとちゃんでの販売実習を行って一番印象に残ったことは、お店に来るほとんどのお客さんとお店の従業員の方が仲良く、ただ買い物をして帰るだけではなく買い物をする際にお客さんとの会話でコミュニケーションをとっていることと、お客さんが野菜を買う際に生産者をチェックしていて、この野菜はこの農家の方が作った野菜なのだと理解して買っていたことです。竹田市では人と人の繋がりが深く農業と住民が密接な関係であることを切に感じました。

くしふるの大地ではブルーベリーの収穫作業を行いました。雨の中の作業で大変でしたがブルーベリーの収穫作業は慣れてコツをつかむと作業効率が上がりやりがいを感じまし

た。ブルーベリーを実際に収穫中食べてみましたが、あまりブルーベリーを食べた事がなかったので酸っぱく感じました。雨が降った後などはブルーベリーの水分量が多くなってしまったりして品質が下がるそうです。ここ 1 週間九州で雨が続いているブルーベリーに影響が出ると話していて、農業において雨は恵みだと思っていましたが、このように農作物によって違いがあるので雨が良いものとは一概に言えないと思いました。竹田市の実習に来てから毎日雨が降り続けていましたが民泊先の方も例年はこの時期に雨が降り続けることは滅多ないと話していて改めて農業は自然に左右されやすいので難しいなと思いました。

久住高原農業高校では実際に農業高校の学生と授業と一緒に参加しました。今回は畜産の実習を体験しました。牛のブラッシングの体験で初めて牛を触りましたが牛の毛並みは硬そうだと思っていたが触ってみるととてもサラサラで驚きました。ブラッシングは汚れを落とすためだけに行っていると思っていたが、ブラッシングすることで牛のストレスを減らし体調管理を整える上で大切だと初めて知りました。畜産について知識が全然なかったので実際に話を聞いたり体験出来たりしたのは貴重な経験になりました。

今回の 8 日間の竹田市の実地研修では様々な方にお世話になりましたが、特に民泊先の方が快く出迎えてくださったことで 8 日間安心した環境で生活でき、不安なく実習に励むことが出来、支えになっていたと思います。前半の 4 泊は山野草の里の上好さんのお宅にお世話になりました。博識なお父さんと優しいお母さんの二人で、夕食の時間に農業の話や竹田市の話など幅広い話をしてくれてとても為になり夕食の時間がとても楽しかったです。特に印象に残っている話が野菜の無人販売所の話で、上好さんは野菜の無人販売所を一から作ったそうで地元のおばあちゃんなどが無人販売所のおかげで農業に生きがいを感じることが増えたと話していて、無人販売所で販売する人は儲けを求めていなく、実際無人販売所では 100 円では買えないほどの量の野菜を全て 100 円均一で売っていて価格設定に驚きました。販売している人は利益ではなく自分で苦労して作った野菜を誰かが食べてくれることに生きがいを感じていて、農業が心の潤いになったことが無人販売所を作つて良かったことだと話していて、上好さんの地域活性への志や農業への理念はとても良いと思いました。

後半の 2 泊は雲中坂の羽田野さんのお宅にお世話になりました。面白いお父さんと明るいお母さんの二人で、明るい雰囲気で出迎えてくださって、とてもリラックスして生活が出来ました。毎日夕食前に竹田市の観光地などに連れて行ってくださって楽しかったです。特に岡城跡に行ったのが印象深く、岡城跡に向かう途中の道路で滝廉太郎の荒城の月が車で走っているときに聞こえたのは驚きました。岡城跡ではお父さんが岡城の歴史や絶景ポイントなどを教えてくれました。1 週間ずっと雨でしたが運良く岡城跡に行ったときには雨が上がって上から見る竹田市の山に囲まれた景色は絶景で感動しました。

8 日間の竹田市実地研修はとても充実した毎日でした。今回竹田市に行き地域の人とのつながりや農業と住民の密接な関係を感じました。竹田市の研修先の方々、民泊先の方々から

竹田市の農業、日本、世界の農業の話や竹田市の過疎化、空き家問題、耕作放棄地問題などについて話を聞き、都心では学べないことばかりで実際に自分の目でこれらの現状を知ることが出来たことは貴重な経験でした。これから先問題解決に向け大学での勉強を頑張りたいと思いました。



地域が違えば人も考え方も違う

乙田 真志

バイオビジネス実地研修で大分県竹田市に 8 月 22 日から 8 月 30 日まで行った。なぜこの竹田市を実習先に選んだかというと、さまざまな農家の方々に指導いただき、地域の農学を網羅的に学べるからです。今回の実習では 6箇所の研修先と 2箇所の民泊先にお世話になりました。

研修 1 日目は羽田空港から大分空港に行き、バスを乗り換えて計 2 時間半も乗り対面式を行う竹田温泉「花水木」に行った。竹田市役所の方々やきょくれ竹田研究会の方々など地域の多くの人に迎入れていただきました。対面式が終わると民泊受け入れ先の「ひろちゃん農園」さんと挨拶をして自宅まで送っていただきました。その後、民泊先の近くに自然公園の河川プールがあるといって連れて行ってくれました。その日は少し日も暮れていで気温があまり高くなかったので、最初は少し寒かったのですが東京の河川プールとは違い、自然の物なので塩素のにおいがなくとても楽しかったです。その日の夕飯の時に民泊先のひろちゃんさんとその奥さんとお話をしたのですが、2人とも 8 時に寝て 5 時に起きて犬の散歩をするのが日課と教えてくださりとても驚きました。

研修 2 日目は雨のなか渡邊かぼす農園で研修させていただきました。あらかじめ先生からかぼすはトゲが危ないからと注意されていてのですが、生で見ると想像以上でした。長いトゲだと 5 センチ近くもあるので、地面に落ちているトゲを踏むと長靴を貫通して足に刺さると言われ驚きました。なので長いトゲを切る作業もありました。東京では 1 つ 300 円ほどで売れるらしいのですが、大分県はかぼすが特産品ということもあり、1キロ 200 から 300 円ほどで売られると教えて下さいました。収穫作業はとても大変で 1 キロ取るのにとても苦労しました。なのに 300 円程度でしか売れないと知ると東京で飲食のアルバイトをした方が楽だし稼げるのではと思ってしまいました。

研修 3 日目は卯野農場で研修させていただきました。卯野農場のは研修で来ている外国



人の方が10人ほどととても多くいました。聞くと母国の時給は400円ほどしかないらしく、大分県の最低賃は800円ほどなので約2倍もあります。それに、卯野農場は住み込みのため生活費もあまりかかりません。なので、給料の半分は実家に仕送りしていると研修生のマックが教えてくれました。卯野農場の卯野さんは「農家」という意識がとても高く、利益にあまり趣を置いていませんでした。地域の人たちが震災などの食料料不足で困った時に無料で野菜を提供と教えてくれました。

研修4日目はエコファーム21で研修させたいいただきました。社長の太田さんは昨日の卯野農場とは対局に「会社」や利益に趣を置いていました。トマトはあくまでもビジネスの材料であり、それを使ってどうやって従業員や家族を食べさせていき、利益を増やすのかという考え方について教えて下さいました。自分は卯野さんより太田さんの考え方のほうが好きでした。仕事をするなら誰だって利益は欲しいし少しでも裕福な生活ができるないとやりがいを感じないため、従業員のやる気の低下や後継者が見つからなくなってしまう、それに休みもちゃんと作らなければならないと教えて下さったからです。なので普段は週休2日で忙しい夏頃は週1日休みと決まっているそうです。農業は他の仕事に比べてキツいため、儲からず休みも無ければ後継者が減っていくのは当たり前だなと思いました。

研修5日目はくしふるの大地で研修しました。くしふるの大地はラーメンチェーンの「一風堂」の研修施設であり、主にはラーメンの材料で使う高菜やネギなどを育てていました。その中にふるさと納税用にブルーベリーを栽培していて、その収穫をやらせていただきました。雨だったので作業は大変でした。本来ならブルーベリーは雨の日だと水分保有量が多くなって実にひびが入ってしまうため行わないそうなのですが、せっかくだからとやらせていただきました。夕飯は施設の方たちが玄米食を作ってくださいました。玄米は仕込みが大変なので普段食べる機会が滅多に無いのですがとても美味しかったです。

6日目の午前中はまたブルーベリーの収穫をしました。昨日と同じで雨が降っていたのですが、2日目ということもあり慣れてきました。なので、昨日よりも作業時間は短かったのですが、同じ量を収穫することができました。午後は大分県唯一の公立農業高校である久住高原農業高校に行き班に分かれて高校生たちと実習しました。自分はパンジーの種



付けを行いました。作業しながら高校生たちと色々話したのですが東京の高校生とは全く感覚や価値観が違うなと感じました。運動部が野球部と牛部しかなく、野球部は部員が9人しかいないので試合が大変という話や、学生寮がありほとんどの生徒が寮に入っているという話などをしてくれました。この日から民泊先が「高原の風」になりました。そこの志賀さんは農大の森林学科の卒業生で、昔農大は青山にあったから青山ひとりが出来たということや、世田谷にキャンパスが移ってきたばかりの頃は周りが畠ばかりだったということなど初めて聞く話をいくつもしてくださりとても楽しかったです。

7日目は（株）フォレストで畜産を体験しました。午前は小屋の掃除や子牛にミルクをあげたり、牛が受精できているか確認する作業の手伝いをさせていただきました。牛は人間より体が大きいのにみんな臆病でした。顔にみんな個性があり、とても可愛かったです。午後は放牧場に行き妊娠していてそろそろ出産する予定の牛を連れて帰る作業の手伝いをしました。放牧場は山の上にありとても広く様々な牧場から預けられた牛がいるのでその中から1頭を探して連れ帰るのはこの実習のなかで1番大変でした。地面はほぼぬかるみで膝まで沈むようなところもありました。雨も降っていたので危険な場所でした。普段何気なく食べている牛肉ですが、これほど手間暇をかけて育てられているものとは知りませんでした。

8日目は竹田市役所終了式を行い、竹田市長の首藤勝次氏から修了書を受け取りました。8日間の実習を終え、竹田市の方々の優しさを改めて感じました。将来このような過疎地域に若い人材を送る方法を見つけたいと思います。

自然と共に生きる町！竹田市

近藤 優気

私は、今回のバイオビジネス実地研修において 1 週間、大分県の竹田市で研修をさせていただきました。実地研修に行く前は田舎といえども、コンビニなどもあり、お店などある程度賑わっているような街だと思っていました。しかし、いざ竹田市へ行くと自分が想像していたよりも自然が多く、コンビニなどの商店も少なく驚きました。そしてそれと一緒に普段、東京で大学生活をしている自分のような人間が 1 週間という短い期間ではありますが、研修を乗り越えられるかがとても不安になりました。

竹田市ではまず初めに花水木という温泉の 2 階で受け入れ式を行っていただき、そこで私たちを受け入れてくださる民泊先の方々と面会を行いました。そして、一通り挨拶や説明などが終わり、すぐに民泊先へ向かいました。私は最初の 4 泊をひろちゃん農園でお世話になりました。ひろちゃん農園に着き、おじいちゃんとおばあちゃんが温かく迎えてくれました。私は少し緊張でしたが、おじいちゃんとおばあちゃんのおかげで緊張が少しほぐれた。そして、おじいちゃんが近くの河川プールに行こうといって下さり、着替えだけをもって河川プールに行きウォータースライダーをたくさん遊びました。水の勢いは割と速く上から滑るのはとても楽しかったです。少し水は冷たく寒かったです、それ以上に楽しく水が冷たいなどは気にならなかったです。そして、家に帰り、シャワーをすると温かいご飯が用意されていて、とてもうれしかったです。そのころには緊張はほぐれており、研修を乗り越えられるのかなんという不安などもなくなっていました。そしてこの研修でたくさんのこと学び吸収して自分の良い経験にしようという前向きな考え方になりました。

2 日目は渡邊さんが行っているカボス農園で研修を行わせていただきました。カボスの葉をとる作業を行いました。陽がしっかりと当たるように葉をちぎる作業は大変でカボス農家の方がこれを自分たちよりも数倍速いスピードで行うことを考えると、カボス農家の方のすごさを感じました。面積はハウスが 26R、露地栽培が 40R、そして新しく 30R の面積でカボスの栽培を行うと聞いて合計 96R もの面積で行っていると聞きました。1000 本のカボスの木を農家さんが 2, 3 人で作業を行うと聞き、自分には正直できないと感じました。普段、自分たちがなんとなくスーパーで買って何となく食べているものが、そのように大変な思いで作られているのを知り非常に驚き、そしてこれからは農家さんに対してリスペクトをする気持ちをもって食材と向き合い、そしてそのような大変な思いで行われているということを自分の周りの人たちにも伝えていかなければいけないと感じました。

3 日目は卯野農場での実習でした。卯野農場へ行くと、まずトウモロコシを生で食べさせて頂き、生でトウモロコシを食べる事は初めてであったので少し驚きましたが、生でもとても甘くとても美味しかったです。少し時期がトウモロコシの収穫の時期とはずれていた

のでトウモロコシの実習を行うことができなかつたのは残念でしたが、それでもとても有意義な実習を行うことができました。まず卯野農場のフィリピンの方と野菜のタネを蒔くプレートを作り、その後そこにタネを蒔く作業を行いました。土をスコップで持ち上げたり、タネを 1 つのプレートごとに蒔くというのは力がとても必要な作業で、普段力作業を行うことがない私はとても大変でした。その作業を午前中は行い、午後はトラックに苗を運んでいくという作業を行いました。この作業も体力が必要とされる作業だったので、帰るときにはクタクタになっていました。このような作業を毎日行うフィリピンの方々のすごさを感じました。またフィリピンの方々は現在、日本で技術を身につけ、フィリピンに帰り技術を発揮するという目標があると聞きました。そして貰っている給料は 1 部が仕送りとして親に送っているというのを聞き、自分たちよりも何倍も将来の事や親への感謝ということを理解しているのだと感じました。

4 日目はエコファーム 21 での研修でした。トマトを大きさごとに選別するという作業は、感覚によるところも多いので難しく感じました。社長には、企業の社長としてのあるべき姿を学びました。大規模な農園で、どのようにすれば会社として売上を上げができるのか、儲かる仕組みをどのように作っていくのかをとても重視されていて、自分も将来家業の畜産業を行うときに為になる話をして頂きました。そして卯野農場とエコファーム 21 では考え方は違いましたが共通点を 1 つ見つけることができました。それは社長と従業員の距離がとても近いことです。そのようなところにも成功の鍵があると感じました。

5 日目は昼からくしふるの大地へ行き、ブルーベリーの収穫を行いました。くしふるの大地は一風堂の研修施設ということもあり、とても綺麗で立派な施設で、このような施設を使わせて頂いた事を感謝しています。ブルーベリーの収穫は 5 日目の午後と 6 日目の午前に行いましたが、本来収穫前のものや潰れている実などを選別して収穫することが難しく、間違ったものをかなり取ってしまいました。雨での作業であったので、体力もかなり奪われあまり自分の納得するような仕事量が出来なかつたことが少し悔しいです。その後久住農業高校へ移動し、高校 1 年生の生徒たちと一緒に作業を行わせて頂きました。高校では花の種を植える作業を主に行いました。高校 1 年生は中学校を卒業して間もないというにも関わらず作業に慣れており、高校生たちに私は様々な事を教えてもらいました。このような環境で育った子たちは将来農業関係の仕事に就くと重宝され即戦力として活躍するのだろうと思いました。高校には鶏や牛もいて畜産の勉強もでき、野菜や花や米といった作物の収穫も行うことができる環境で将来農業を行う人としては素晴らしい環境であると感じました。そしてまた高校生のエネルギーというものはとても強く自分の中高時代を思い出すことができました。

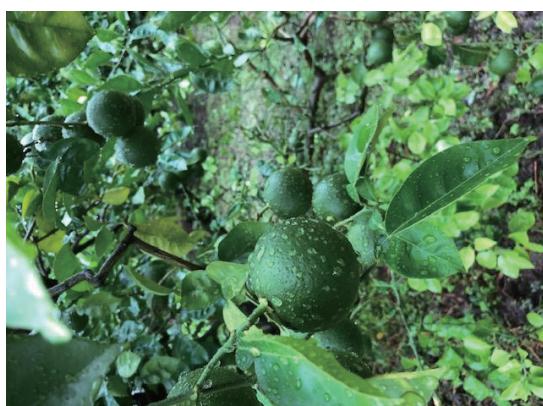
その夜から 2 泊高原の風にてお世話になりました。毎食のご飯がとても美味しく、また源泉掛け流しの温泉にも連れていって頂きました。お父さんが農大出身であったという事もあり話もとても楽しくお話ししさせていただくことが出来ました。

7 日目にはフォレストにて畜産の研修でした。フォレストで印象に残っているのは雨の中

牛の放牧をさせて頂いた事です。沼にハマリ、ドロドロになりながら作業をしたことはいい思い出です。雨の場合でも晴れの人同じ事をしなければいけない大変さを感じました。放牧の中で難しかったのは、放牧場から出産前の牛を牛舎に持つて帰る作業でした。放牧場には沢山の牛がいる中で牛を見つけ、持つて帰らなければいけないのですが広大な土地の放牧場では、それがとても難しかったです。しかし、フォレストの伏田さんは牛の顔を見て見つけていました。毎日牛と関わっていると牛の顔まで分かるという事に驚きました。それだけ真剣に牛と向き合う姿はとてもカッコよかったです。

今回の研修では本当にたくさんの方の協力で行うことが出来ました。ひろちゃん農園、高原の風の皆様、私たちのような者を受け入れてくださった研修先の皆様、そして竹田市の市長やお世話をしてくださった市の職員の方々には本当に感謝をしております。ありがとうございました。この経験を活かし、これからまた学業に励みたいと考えております。そしてまたこの自然とともに生活をし、農業に力を入れる人達がいるから、私たちは生活ができているという事を自分の周りの人たちに広めていきたいと思っております。

本当にありがとうございました。



地域活性化へと繋げる農業

佐野 桃香

8月22日から29日まで、大分県竹田市で実地研修を行いました。私がこの実習先を選んだきっかけは、昨年この実習先に行かれた先輩方がお勧めしてくれたこと、そして毎日違った研修先で様々な実習ができるということに魅力を感じたからです。また高校生の時の体験学習で、長崎や、水俣を訪れて、平和や公害問題の過去から現在そして未来について考える機会があり、その九州を今度は農業や自然といった別の観点から知りたいと思ったことも動機となりました。

竹田市は、大分県の南西部に位置し、くじゅう連山、阿蘇外輪山、祖母山麓に囲まれた地です。1日に数万トンの湧出量ともいわれる湧水群を誇る水と緑があふれる自然豊かな地であります。山々から湧き出る豊かな名水は、全国的にも知られ、下流域の多くの人々の生活を支えています。本市では、こうした大自然の恵みを活かした農業や観光が基幹産業となっています。また産業面では、広大肥沃な大地や、豊かな草資源、夏季冷涼な気象条件を活かした農業と自然だけではなく、歴史や文化にも触れあえる観光が盛んです。農業では、米を中心に大分県の特産品であるカボスやシイタケ、トマトやスイートコーンといった野菜、サフランをはじめとする花き、肉用の豊後牛などを生産しています。

今回の研修では、エコファーム21、渡邊カボス農園、くしふるの大地、久住高原農業高等学校、道の駅竹田の5つの場所でお世話になりました。

エコファーム21は、平成11年に3名が組織を設立し、共同でトマト栽培を始め、現在理事4名で運営している西日本最大規模の施設です。代表理事の太田さんは、1ヘクタールもの巨大なガラスハウスを建設し、夏には夏の、冬には冬の作り方で、徹底した品質のトマトを栽培していると教えてくださいました。太田さんは高齢化が進む地区で、農業従事者が減っていく未来を考えると、少ない人数でも経営していく農業をしていくことが必要だとおっしゃっていました。また、太田さんは儲けるための農業を大事にしていて、いかに企業利益を獲得するかということに関して、消費者に求められる見た目よいトマトを作ることや、海外の料理人に材料として使ってもらえるようなトマトを作ることが目標だと話してくださいました。さらに農業版のショッピングモールを設立し、そこでは実際に農業も体験可能とすることで地域の活性化に繋がることがしたいと今後の経営戦略も話してくださいました。私たちは、エコファーム21でミニトマトの収穫と、トマトの選果作業をさせていただきました。トマトの選果、箱詰め作業では、必要とされている場所に適した色、状態のトマトを届ける必要があることを教えてくださいました。収穫してから箱詰めし、出荷するまでのスピードが大事だと感じました。

渡邊カボス農園は、面積26アール、路地140アールで、約1000本のカボスの木から成り立っています。大分1号という品種が8,9割を占めている。夫婦2人でほぼ全ての作業

を行っていて、朝から晩までずっと収穫作業をすることも普通であるとおっしゃっていました。

カボスは大分県を代表する農作物で、地域の食卓には欠かせない存在であり、古くから家の庭先には必ず植えられていました。昭和30年代に本格的な産地化と販売がはじまり、大分県を代表とする農産物に育ち、臼杵市と並んで、日本一の生産量を誇っています。私たちはカボスの品質向上のための葉切りと、収穫をやらせていただきました。葉を除く作業はどの葉を切れば光が当たるようになるかを考えながら取り組んでいます。雨が強かつたのとカボスの棘が鋭いため、作業は大変でしたが、作業後には達成感があった。また収穫作業は、かなり単純で難しくはありませんでしたが、この作業をほぼ2人ですべてやることは、体力面や時間的な制約から厳しく、容易なことではないと感じました。

くしふるの大地は、2009年から標高707メートル、久住農場の圃場で農作物の栽培を開始しました。面積は52ヘクタールで、朝晩と日中の温度差を利用した甘味や実のしまりが良い高原野菜を中心に、白ネギや、広島菜、高菜、ブルーベリー等、色々な野菜を栽培しています。久住農場は、もともとは福岡に本拠地を構えるラーメン店である「博多一風堂」を展開する株式会社 力の源カンパニーが外食産業に農産物を供給することを目的に2009年に農業生産法人を設立して竹田市に農業参入したことが始まりでした。地域に根を下ろした農業をすることを目的に、地域資源や文化を大切にしながら、農業=人をモットーに、地元農家や企業参入した仲間とともに、地域に貢献できる農業生産法人に成長することを理念としています。企業参入したメリットとしては、食育について教える機会がある、食べ物の生産から調理までの過程をすべて見せることができると言っていました。対してデメリットとしては、投資と回収のバランスがとれないことや、高度な技術や人材の育成、人件費の問題、作物を育てることが1年に1回のため失敗できない問題があると言っていました。収穫した野菜や、果物は、ふるさと納税の返礼品として送ったり、全農や道の駅で販売したりしているといいます。ブルーベリーの収穫においては、自分が収穫した3分の1を持ち帰ることができます。こうした農業体験や研修など様々な取り組みにより、地域の人々と深い関わりを持ち続けていけるのだと思いました。2日間にかけて、ブルーベリーの収穫を手伝わせていただき、大きく、熟した実を一生懸命収穫し、2日間で3キロとることができました。

久住高原農業高等学校は、2019年に県内唯一の農業単独校として新たに開校した学校です。ここでしか学べない竹田久住高原学の授業や、地域のことを知り、地域に貢献できる人材を育成することを目標として、様々な研修や研究を行っているという特色があります。私は畜産、草花、野菜の分野の中で、草花を選び、高校生と一緒にパンジーの鉢植えをさせていただきました。作業は短い時間ではあったが、その後、牛舎や、水田を案内していただき、貴重な経験となりました。

道の駅竹田では販売実習をさせていただきました。ここは国道442号沿いにあり、地元の特産品や農産加工品が揃った直売所、とれたての野菜がたっぷり使われたレストランが

あります。ここでは誰でも会員になることができ、自分で商品の値段を決めることができます。出して売れなかつた商品に関しては、出品者が持ち帰るという仕組みになっています。お店が開く前や、開いた直後は、採りたての野菜や、花を持ってくる方を多く見ました。お昼近くになると、手作りのお弁当を出している方もいました。道の駅は、大道路沿いにあるということで、観光客や、外国からいらしたお客様を多く見かけた。一方で、地元の方々もたくさんいらしていて地域の交流の場になっていると感じました。品物には生産者の名前、生産地が書かれていて、安心して買うことができることに繋がっていると感じました。

今回の実習では、3つの民泊にお世話になりました。青柳庵で2泊、山野草の里で1泊、民宿湧水で2泊させていただきました。どの民泊でも家族のように暖かく迎えてくださったおかげで、来る前にあった不安はすぐになくなりました。夜には炭酸の効用で有名なラムネ温泉や七里田温泉など有名な温泉に色々連れて行ってくださったり、ヤマメやエノハ、アマゴ、ニジマスなど普段食べる機会のない魚を食べさせてくださったりしました。また九重夢大つり橋や、岡城址跡など名所にも連れて行ってくださり、感謝の思いでいっぱいです。竹田にいた一週間は、人と人とのつながりや温かさを強く感じることができ、一期一会を大切にしたいと思えた時間でした。1週間という短い間でしたが、竹田にきてやらせていただいたことはこれから的人生で大切な糧として生きてくると思います。



農業における地域活性化と地域内コミュニケーションの必要性について

塩谷 溫子

私は8月22日から29日までの8日間、大分県竹田市に研修に行きました。竹田市は緑豊かで東京にも私の地元である鳥取県にもない広大な平野があり、日本なのですが初めての光景に海外に来たような気分になりました。今回の実習では、渡邊カボス農園、エコファーム21、とまとちゃん、くしふるの大地、久住高原農業高校に研修を受け入れていただきました。

初日は渡邊カボス農園で研修を行いました。渡邊カボス農園は夫婦2人で家族経営を行っており、作業は収穫など忙しいときに近くに住む親せきにも手伝ってもらって最大5人で作業をするとお伺いしました。カボスの耕地面積はハウスが26aで露地栽培が40aで生産量は年間平均して25t、少ない年でも20tほどです。カボスの栽培品種は大分1号で県内の8割～9割がこの品種です。カボスは1kg平均で300円、高いときは1500円で売れるます。カボスの他に稻作やシイタケの栽培もしており、カボスの時期が終わっても年間を通じて作業する複合経営を行っています。カボスは昔に比べて、加工飲料であるつぶらなカボスなどの開発により加工用のカボスが売れるようになりました。傷ものでは1kg昔は30円ほどだったものが90円で売れるようになったと聞き、加工品として用途を変えて売ることで単価は低いものの全体の売り上げが上がり、また廃棄も減るので良いと感じました。午前中の作業は葉もぎと収穫作業を行いました。葉もぎは果実に日光が当たるようにするために作業であり、色づきを均等にさせます。雨の中の作業で体力を消耗しましたが、これが普段の作業の大半を占めるとお伺いしたので体験ではなく農家としてするには覚悟と忍耐が必要だと感じました。午後からはカボスの収穫作業を行いました。カボスの出荷サイズはS、M、L、2Lとあり、この日はMサイズのものを収穫しました。カボスには等級があり、それによって出荷の値段が変わるのが味や糖度などではなく、大きさや色によって決まる知り味重視ではないことに驚きました。

2日目の午前中はエコファーム21が休日であったため、社長である太田さんの自宅の隣にあるトマトハウスでトマトの収穫を行いました。トマトの収穫は以前したことがあったのですが、その時よりも枝をクイッと引くだけで簡単に収穫できて大きさかもしれませんが感動しました。午後は太田さんに熊本県の阿蘇山に連れて行っていただき、あいにくの雨と霧で阿蘇山は見えないどころか前も霧でよく見えないという状況でしたが、初めての阿蘇山でわくわくしました。

3日目は、直売所とまとちゃんと主に販売作業を行いました。そこでは主に農産物やトマトの加工品などが売られ、特に荻町特産のトマトはすぐに売り切れてしまうほど買いに来る人が多くいました。私も実家へのお土産に、おすすめしていただいたトマトジュースを買ったのですが、トマト特有の臭味がなく、スッと飲めて美味しいと好評でした。通信

販売もしているとお伺いしたので、ほかの商品と一緒に実家に送ってみようと思います。とまとちゃんは大分県と熊本県を繋ぐ道路に隣接した所にあるので車で来れる方が多く見受けられました。また、近所のご高齢の方も歩いてこられる方も多く、地域の生活の基盤になっていると思いました。そして私たちに声をかけてくださる方も多く、とても消費者との距離が近く、地域においてコミュニケーションの場にもなっていると感じました。販売しているもので特に印象に残っているのが、ゆでもちです。もち米ではなく小麦粉で作られており、昔農家さんが稻作や農作業の休憩の合間に食べていたものだそうで、米は売りに出さなければいけなかったので小麦粉を使用しています。現在もおやつとして食べたり、お盆の時期には恒例で食べており、お盆は販売が追い付かないため予約優先にしているそうです。その日も朝はたくさんありましたが、16時頃になると完売していました。私も実際に食べましたが、とてもおいしかったです。

4日目の朝に農家民泊でお世話になった好上さんに無人販売所「菩提樹の里」に連れて行っていただきました。菩提樹の里は上好さんが住む久住の地域の自治会の希望者が運営する野菜や花の無人販売所です。自治会は22人おり、うち15人ほどが無人販売所に出荷しています。午前中は、雨が降らなかつたら魚釣りをする予定だったのですが雨が降ってしまい、上好さんに道の駅に行くことが好きだとお話ししたところ熊本の道の駅に連れて行ってくださいました。午後からはくしふるの大地にて研修を行いました。くしふるの大地はラーメンで有名な一風堂のグループ会社で、2009年に一風堂の従業員の研修先として設立され農業参入をしました。くしふるの大地では白ネギや高菜、広島菜、ブルーベリー、キャベツなどを栽培しています。全体面積は52haあり、うち8haが農地で傾斜地が多く栽培は少し難しいと聞きました。企業参入のメリットとしては食育や農業大学校など地域とのつながりができることで、また経済的なメリットとしてくしふるの大地で栽培した高菜を漬物屋に卸して、現在は一風堂グループに卸しだしていることがあげられます。デメリットとしては天候、獣害、人材不足、の管理が難しく、1度の天候不順で収穫ができなくなり利益回収ができなくなると聞きました。安定した収入を得るために現在白ネギは全国農業協同組合連合に卸し、ブルーベリーはふるさと納税や地域の観光施設に出しています。そのくしふるの大地では、今回ブルーベリーの収穫をしました。紫色に色づいたものを収穫しましたが、初めのうちはすぐに判別できずに選別作業のときには何個かまだ赤く熟していないものも収穫してしまっていました。しかし、だんだんと慣れていくにしたがって色づいたものが多い木をすぐに見つけられるようになったり、どの配列でよく見受けられるのか、より重量のある実がなる木はどれなのかを判別できるようになってきて作業が楽しくなっていました。

5日目の午前中は前日に引き続き、くしふるの大地でブルーベリーの収穫作業を行いました。作業に慣れてきて前日より多く収穫することができ、達成感を味わうことができました。午後は久住高原農業高校で高校生と一緒に畜産研修とロープワークを行いました。畜産では牛のブラッシングと牛の体測を行いました。ブラッシングの目的は主に4つあり、

血行を促す、衛生面を保つ、ストレス発散を促す、人に慣れさせるためです。実際にブラッシングを体験しましたが思っていたよりも牛の毛は柔らかく、触り心地が良いことを知りました。体測には体尺計、キャリパをという道具を使用して行いました。ロープワークでは輸送結びというものを教えていただきました。今回高校生との研修で高校生はロープワークをするにしても呑み込みが早く、また実習を楽しんでいるように見受けられ、このように高校生と交流することによって自分にないものを吸収できたのかな、と感じました。

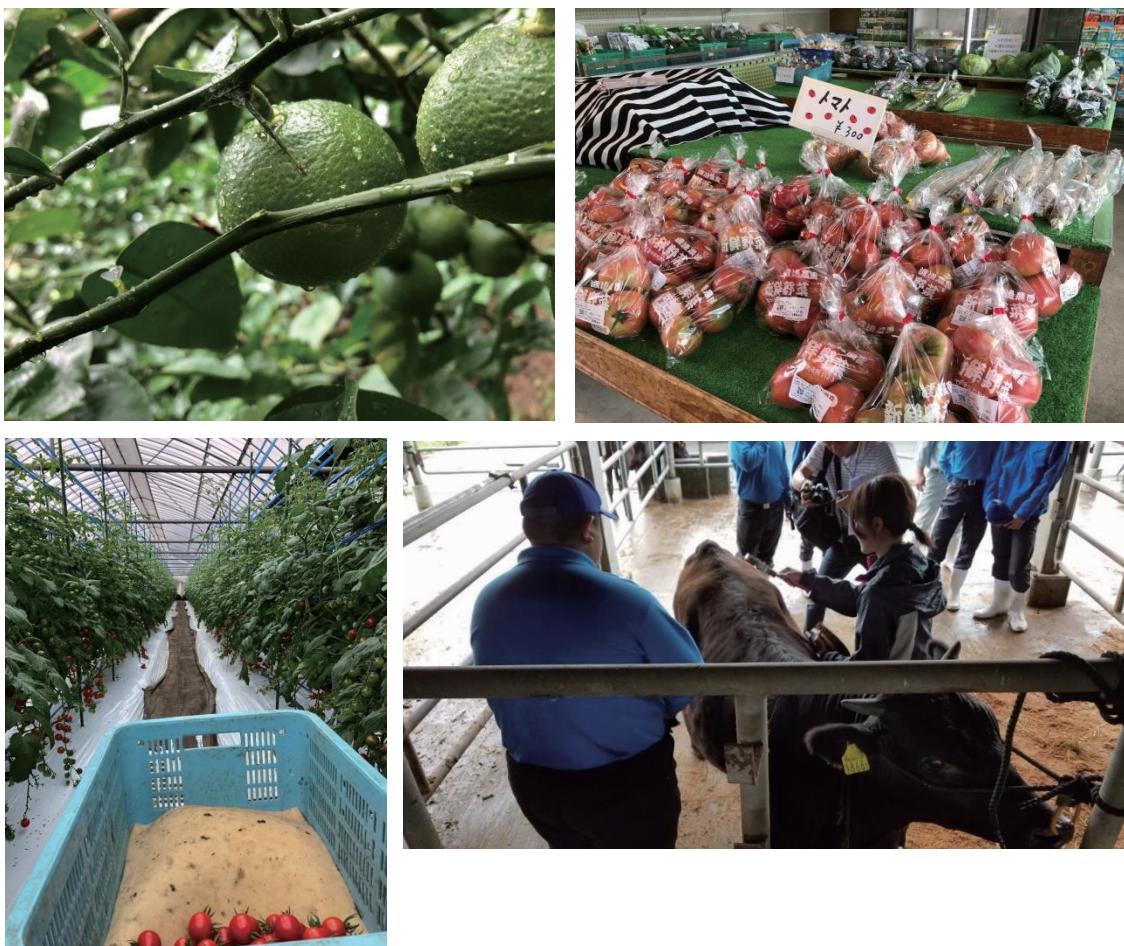
6日目はエコファーム21でトマトの選果作業を行いました。選別機であらかたの大きさに分けられたものを色ごとで分ける作業を行いました。初めは慣れず自分のレーンにトマトが溜まってしまいましたが、だんだん慣れてきて自分の中で色の区分の基準が分かるようになり作業効率も上がっていきました。

今回の研修で特に無人販売所のことに興味を持ちました。家庭菜園などで採れた農薬をあまり使わない新鮮な農産物が販売されており、県内外から買いに来る人がいます。出荷の流れは、朝に農産物を販売所に持っていきノートに出荷した個数を書きます。そして夕方にまた来て、売り上げをノートに記入します。菩提樹の里は全品100円均一で販売しており、量に規定はなく生産者が設定できます。スーパーに出荷しては自分が生産したものがどの位売れたのか目に見えてわからないが無人販売だと卖れたか目に見えてわかる、生産意欲の向上になると思いました。また、上好さんは高齢の方の生きる力を向上させていっているでは、とおっしゃっていました。売上はパソコンで管理しており、上好さんはその情報から他の人と出荷時期が被らずに出荷できるように生産を調節できないか試行錯誤中だとおっしゃっていました。無錢で野菜を持ち帰ってしまう人がいたため、監視カメラを設置しパソコンでいつでも確認できるようにしたそうです。現在でも、毎日売上金額は実際の売り上げより少ないことが多いとのことです。また、利益から1日2%を事務経費としており現在では数百万円も貯まっているそうで今度自治会の無人販売に参加している人で旅行を考えているそうです。今回、実際に無人販売所に行ってみて「無人」なのですが、出荷時間は自治会の人が販売所に集まるのでコミュニケーションの場になっているように感じました。しかし無人のため、きちんと消費者がお金を払うかわからないなどのリスクがあること、その日もそうでしたが前日が雨だと畠に出ていない生産者の方が多く、そのため出荷数も少ないなど天候などで安定した供給が難しいこと、生産者の高齢化などが問題点として挙げられると思いました。また、新しい企画としてメールアドレスを作成し登録してもらい、朝の出荷状況やおすすめのメニューを配信したりするのもいいのではないかと考えました。

8日間という短い期間の研修でしたが、一層農業のことに興味を持つようになりました。大学では座学が多く実際に現場に赴くことはなく想像の部分が多かったのですが、農業を肌で感じた8日間でした。また、地域の方と関わる機会も多く、どの研修先も地域内でのコミュニケーションのルーツになっており経済発展には地域内コミュニケーションが不可欠であると感じました。研修を通して、将来地元である鳥取県でも大規模農家のエコファ

ーム21や小規模農家なども継続的な経営が可能な環境を作る支援をしていきたいという目標もできました。農家民宿ではお父さんお母さんが本当に優しくしてくださりホームシックにもならず、美味しいご飯をたらふく食べさせていただき、毎日万全の状態で研修に臨むことができました。今回、研修の受け入れをしてくださった皆さん、農家民宿のお父さん、お母さんには感謝の気持ちでいっぱいです。8日という短い間でしたが貴重な体験をさせていただきました。また、改めて自分は農業が好きだということを気づかせていただきました。この気持ちを忘れずに今後も将来設計を立てていこうと思います。

本当にありがとうございました。



竹田市実習で感じた農業への感謝と将来性

藤崎 太一

1. はじめに

私が、大分実習を選んだ理由には2つの点があります。1つ目は、近年知名度がますます上がっている岡城をこの目で実際に見てみたかったからです。そして2つ目は、私の祖母が大分市でスナップエンドウ農家を営んでいることもあり、大分という地での農業に親近感を抱いていたからです。

2. 実習作業について

竹田市実習の7日間は、毎日違う農家のところへ行き、農作業を体験させていただきました。その中でも特に私が心に残った実習をあげていきます。1つ目は作業初日の「渡邊かぼす農園」です。作業内容は、かぼすにしっかりと日の光が行き届くよう、適度に葉を摘む葉摘み作業と、大きさごとにかぼすを選別し、収穫する収穫作業です。大雨の中の作業ということもあり、体力の消費も激しかったが、かぼすの木特有の棘が葉を摘む作業の際に腕に刺さり、かぼす農業の大変さを思い知らされました。私は普段生活をしていて、かぼすを食べることはあまりありませんが、この「渡邊かぼす農園」での体験を経て、かぼす大国である大分県の特産品についてもしっかりと知識を得ることができました。

そして、2つ目は、株式会社フォレストでの畜産実習です。畜産実習当日の朝、私は、あまり乗り気ではありませんでした。それは、私の中にある畜産分野の印象は、肉体労働かつ家畜の糞尿の掃除などによる汚れが多い作業だと思っていたからです。しかし、畜産実習に行く前と行く後では、私自身の考え方と心の持ち方が180°変わりました。作業当日、まず初めに株式会社フォレストの伏田さんの所有している牛舎に連れて行っていただきました。牛舎に入った瞬間の私の第一印象は、とてもきれいで匂いも気にならない牛舎だというのが、実際でした。そして、何よりも、牛の可愛さの虜になってしまいました。その感情は畜産業では不必要なものだとわかっていたのですが、抑



えられなかったです。私がそこにいた子牛の虜になっていたことに気が付いたのか、伏田さんが気を遣って私に、子牛にミルクをあげてごらんと言ってくださいり、ミルクをあげたとき、子牛のミルクを飲むスピードの速さと力強さに、野生の力と尊い命の両方を感じました。そして、作業に移る前に、伏田さんが牛舎の牛を自分の土地である山に放牧しました。そして、それが牛のストレス軽減のためであり、そうすることで肉の味と質が上がるということを聞き、ただ餌をあげるだけではない畜産業の深さを感じました。午前中は牛舎につながっている道の剪定を主に行いました。昼食休憩の時間になり、伏田さんのご自宅にお招きいただき、そこで伏田さんも育てている豊後牛のお肉をいただきました。その肉は今まで食べたことのないような甘さと旨味があふれ出てくるような味で、幸せを感じるとともに数えきれないほどの命の犠牲のおかげで私たちが普段から肉を食べることができいると感じ、普段何気なく食べている食べ物への感謝を忘れてはいけないということに気付かされました。午後の作業は、牛を出荷する際に使用する紐の結び方を教えていただいたのと、牛の餌を分けて全頭に回すことができるようになるという力作業が多かったが、豊後牛を食べたことにより、命の尊さを感じることができたため、自然と苦痛にはならなかったです。そのため、当初は気乗りしないなかった畜産実習でしたが、1日が終わつたその時には知識をつけることができただけでなく、人としても成長できたと感じることができた実習でありました。

そして、最後は、作業面以上に企業としての経営戦略面で尊敬することがエコファーム21の太田さんとの話を書きたいです。エコファームは大規模なトマトのハウス栽培をしており、田舎から農業を盛り上げるために、ハウス栽培先進国であるオランダまで足を運ぶなどの行動力も尊敬できました。当日の朝は、エコファームの企業の説明を受け、午前中はトマトの選別作業をずっとしていました。農作業を経験できたという面でとても良い経験になったが、その後、ハウス内の施設をまわつた際に太田さんがおっしゃっていた言葉に農業ビジネスの将来性を感じました。それは、農薬散布やハウス内の気温と湿度、水の撒くタイミングなどをすべてコンピュータ内で管理しているという話を聞き、農業にもIT導入の時代が必ず来ると思っていた私自身から見て、エコファームという会社の代表である太田さんは、先見の明があり、時代の先取りをできている素晴らしい企業だと感じました。午後になると、太田さんが「九州といえばここ」という場所に連れて行ってくださいり、太田さんの車で熊本県の阿蘇山まで行つきました。これまで阿蘇山に一度も行ったことなく、山の大きさや壮大さも初めて体感するものだったため、感動するものがありました。

3. まとめ

私はこの実習を通して、感じたことは2つあります。まず1つ目は畜産実習を通しての命の尊さです。私たちは今当たり前のようにお肉を買い、食べています。この実習を行つた後なので私も偉そうなことが言えるが、正直に私も実習に行く前までは畜産農家の大変さと命の尊さについて、何も考えずに食事をしていました。しかし、畜産農家の牛舎に行き、子牛と触れ合い、このかわいい子牛の命をいただいて私たちがようやく生きていけていることを理解した後では、



命をいただいて生活している身として、感謝の気持ちを忘れずに大切に食べることの重要さをひしひしと思い知りました。そして、2つ目は、農業分野にITを導入することの大切さです。今の日本の農業は高齢化が進んでおり、実習を通じて農作業のしんどさを理解したぶん、若い世代の農業参入かつITの導入による、人の手を必要としない農業分野を開発することが近い未来必要になってくると私は考えています。そのために大分実習で学んだことを通じて、これから農業分野の未来を明るくできるよう努力します。

初めての九州、新たな出会い

三橋 凌人

大分県竹田市の実習は8月22日から8月29日まで行いました。私は、九州には一度も訪れたことがありませんでした。そして、竹田市の実習は一日ごとに研修先が変わるというところがとても魅了的でこの実習を選びました。

研修初日は、羽田空港から大分空港に飛行機で移動をしました。空港から大分駅までに移動をし、そこから竹田市までは、高速バスで約1時間半かけて移動をしました。大分駅周辺は都会という感じでしたが、時間が経つにつれ高層建築物が少なくなり、次第に景色が田舎に変化していきました。

竹田市に到着してからは、「花見月」という温泉の広間で受け入れ式が行われました。受け入れ式では、市の役員の方、来ちょくれ竹田研究会の方々、竹田市のTV局の方が出席をし、自己紹介や実習の概要や竹田市についての説明を受けました。受け入れ式が終わると、それぞれの民泊先に移動をしました。私は「雲中坂」の羽田野さんご夫婦にお世話になりました。羽田野さんは、自分の息子のように接してくれました。民泊に到着してすぐに、「雲中坂」で栽培しているスイカを収穫させてもらい、ご馳走させてもらいました。研修後には毎日温泉に連れて行ってもらいました。観光名所も案内してもらいました。その中でも圧巻だったのは、原尻の滝でした。自然の壮大さに言葉を失いました。他にも日本で行ってみたいお城ランディングが一位の岡城跡にも連れて行ってもらいました。

研修の二日目は、カボス農園の渡邊さんにお世話になりました。午前中の作業はカボスに均等に日光が当たるように葉を落とすという作業をしました。そして午後はカボスの収穫作業を行いました。葉を落とす作業は単純作業のうえ、さらにどの葉を落としたらいいのかを考えなければいけないので、大変疲れました。お昼休憩の時、体がとても重く驚きました。きつい肉体労働もしたわけでもなかったので、こんなにも疲れるなど思ってもみなかつたです。

研修三日目は、(株)フォレストさんで研修を行いました。まず初めに子牛にミルクをあげる作業を行いました。子牛が飲み口を吸うと哺乳瓶ごと持っていくような勢いでした。子牛にもこんなに力があるのだと思いました。フォレストさんは放牧で育てているため、牛の放牧を見届けました。その後道にかかっている木を取り除く作業を行いました。私は、その時初めてチェンソーを使用しました。思った以上に反動が強く少し怖さを感じました。お昼ご飯には、伏田さんのご厚意で豊後牛をご馳走させてもらいました。今まで食べたお肉よりも美味しく油ものっており、たくさん食べさせてもらいました。伏田さんは農大のOBの方で、昔の農大のことや、農大近辺の話をたくさん聞かせてもらいました。そうすると、今と昔で変わっていないところもあり変わっているところもありと、楽しくお話をさせてもらいました。

研修四日目は、エコファーム 21 さんで研修を行いました。作業内容は、機械で大きさを仕分けされたトマトを手作業で赤、ピンク、緑と手作業で箱に詰める作業を行いました。エコファーム 21 の太田社長は、若い人材の獲得のためには、まず若い女性を多くほしいと言っていました。最初は私にはその考えが全く理解ができませんでした。なぜ、若い女性が多くいるのが人材獲得につながるのだろうと思いました。そうすると太田社長は「若い女がいたら男子は入りたがるだろ」とおっしゃっていました。考えは単純でしたが、その発想には至らないと思います。社長をやるという人は、発送がユニークなのだと感じました。

研修五日目は、午後からはくしふるの大地さんで研修を行いました。くしふるの大地は、力の源カンパニーの子会社だそうです。栽培している主な作物は、白ネギ、高菜、野沢菜、キャベツ、ブルーベリーです。ここでの研修内容はブルーベリーの収穫でした。くしふるの大地では、ブルーベリーの収穫作業は観光客などの一般の人がするそうです。給料を現金で払うのではなく、収穫したブルーベリーの三分の一を収穫した一般の方に配給するという内容でした。人手を補う方法にはこういうやり方もあるのかと思いました。私達も同様に収穫したブルーベリーを冷凍して送ってもらいました。さらに収穫したグラムで上位三名には、一風堂のインスタントラーメンを景品としていただきました。私は上から三番目でしたので、その景品を手に入れることができました。実家に帰りお昼ご飯に自分で調理し美味しくいただきました。

研修六日目は、午前中は五日目と同様にブルーベリーの収穫を行いました。午後からは、久住高原農業高校で研修をしました。高校生の授業に参加をし、一緒に実習を行いました。農業高校だけあり、私が話した高校生達のほとんどは実家が農家か親戚が農家の子ばかりでした。驚いたのは、「将来どうするのと」と聞くとどの子もすぐにこれというものがあり、私なんかよりもはっきりとした将来像をもっており、尊敬しました。

研修が終わり、この日からお世話になる民泊が変わり、私は「青竜庵」にお世話になりました。そこでは犬を飼っており二匹のミニチュアダックスフンドと触れ合いました。二匹ともとてもかわいく人なつっこい子たちでした。

研修七日目は、卯野農場さんで研修をしました。最初にピーマンの蒂を切るという作業を行いました。作業内容はいたって単純で簡単でしたが、ピーマンの量がとても多く蒂を切る作業だけで午前が終わりました。午後からは農場の見学と土をプラグトレーに入れていくという作業を行いました。卯野さんの農場は研修したどの農家よりも広く多くの作物を栽培していました。その分人手が多く必要となるため、卯野農場には多くの外国人の労働者が働いていました。日本語はあまり上手くはありませんでしたが、作業を丁寧に教えてくれました。お昼の時に生のスイートコーンを食べさせてくれました。私は、生で食べるのは初めてでした。卯野さんが「生で食べても美味しいよ」と言っていたので思い切って食べてみるととても甘く美味しかったです。

研修最終日は、市役所で修了式を行いました。修了式では終了証書を首藤市長から授与

されました。修了式の後に市長は私達と握手をし、「これからも頑張ってね」と声をかけてくれました。

竹田市ではたくさんの方々にお世話になりました。私たちのことを嫌な顔一つせず暖かく迎え入れ、面倒をみてくれたことにとても感謝しています。研修では農業の大変さを体で感じることができました。実際に作業をしてみると座学だけではわからない大変さ、それと同時に農業の楽しさを実感しました。農業は儲からないと思われがちですが、エコファームさんはトマトで成功しているので、農業にもたくさんの可能性を感じました。それだけでなく、人ととの繋がりの大切さを学べました。

今回の実習での経験や出会いを大切にし、将来自分が就職したときには、竹田実習でお世話になった方々にいい報告ができるようにこれから頑張っていきたいです。

